

瀬戸内地域におけるブルーカーボン創出 に向けて

2024年7月26日
株式会社中国銀行 地方創生SDGs推進部
上席スペシャリスト 武田憲和

自己紹介

武田 憲和

- 本職 : (株)中国銀行 地方創生SDGs推進部
(株)ちゅうぎんフィナンシャルグループサステナビリティ推進部
- 職位 : 上席スペシャリスト (専門職)、次長
- 副業 : リバネスキャピタル
- 経歴 : 1976年 生まれ (47歳)
1999年 中国銀行入行 営業店～本店融資部
(経営改善サポートセンター)
2014年 岩手県産業復興相談センター (出向)
2016年 地方創生担当者としてソリューション営業部
2020年 地方創生SDGs、新規事業PJ参画
2021年 地方創生SDGs推進部を立上げ現職
- 資格 : 中小企業診断士 ファイナンシャルプランナー2級
ITパスポート 食品衛生管理責任者



銀行概要

事業内容	普通銀行業務
本社郵便番号	700-8628
本社所在地	岡山県岡山市北区丸の内1-15-20
本社電話番号	086-234-6524
創立	1930年
資本金	151億円
従業員	2,645名 (2023年3月31日現在)
預金残高	7兆9,152億円 (2023年3月31日現在)
貸出金残高	5兆5,664億円 (2023年3月31日現在)

ちゅうぎんグループの事業エリア



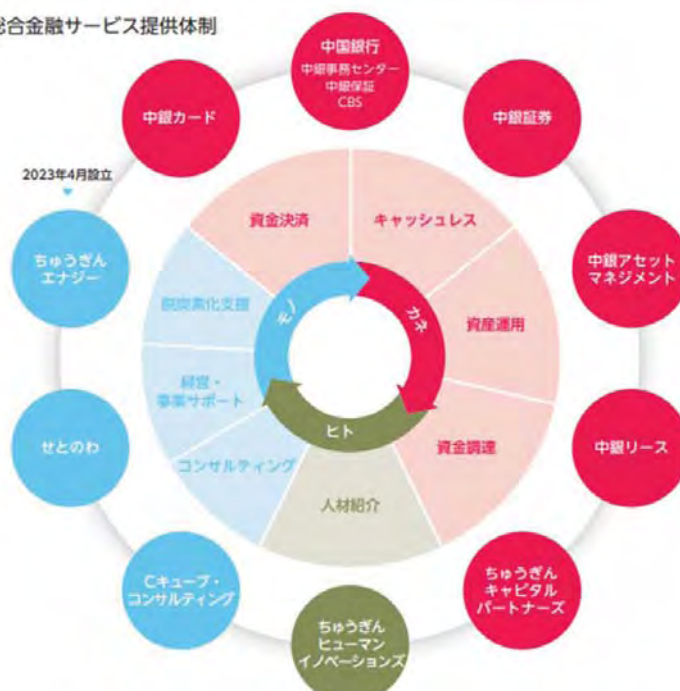
海外拠点



総合金融グループ

ちゅうぎんグループの概要

お客さまへの総合金融サービス提供体制



銀行が何故、海に関する活動をしようと思ったか

銀行の使命



地方創生

地方創生とは



- ①地域の資金循環量の増加
- ②資金が流動的

地方創生の実現のためには、

- ①地域資源を活用し
- ②外貨を稼ぐ循環を作る



銀行の営業拠点資源

- ①中国山地の豊かな山林
- ②瀬戸内の豊かな海

世界ブランド「瀬戸内海」を磨きあげる！

瀬戸内海について

瀬戸内海



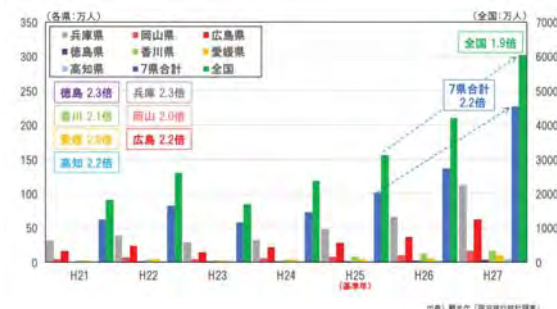
- 瀬戸内海は東は和歌山、西は大分まで
- 多島美のある、波の穏やかな世界最大の閉鎖海域

瀬戸内海の活用

【豪華客船】



◆外国人延べ宿泊客数（本州+四国：7県）



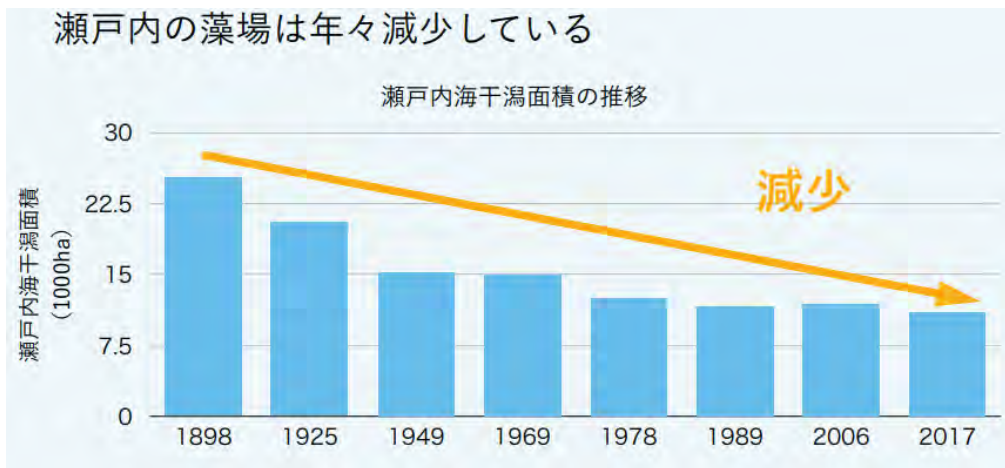
【瀬戸内芸術祭】



- 瀬戸内海はインバウンド観光を中心として、間接人口増加に寄与
- 全国より観光客伸び率は高く、更に伸びる可能性を秘めている
- コロナ禍で停滞していたが、TNFDなどの世界的な自然資本保全に注目が集まる中、豊かで美しい瀬戸内海の注目度は高い

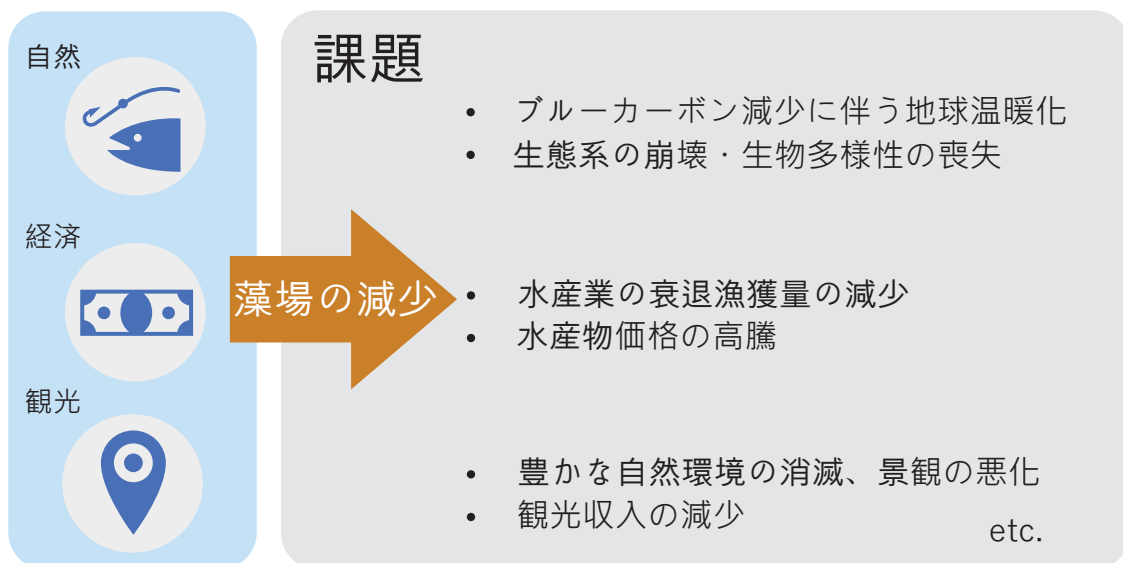
瀬戸内の現状

瀬戸内の藻場は年々減少している



瀬戸内海の課題

藻場の減少に伴い、様々な課題が生じている

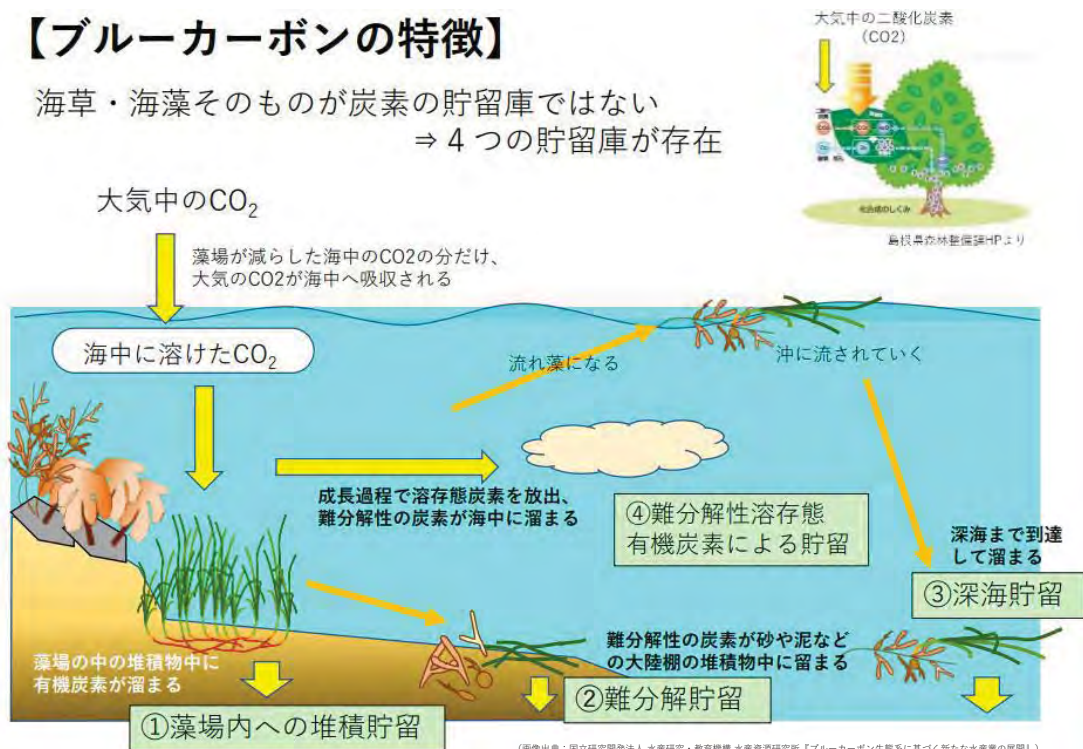


➡ 要対策

ブルーカーボンとは

【ブルーカーボンの特徴】

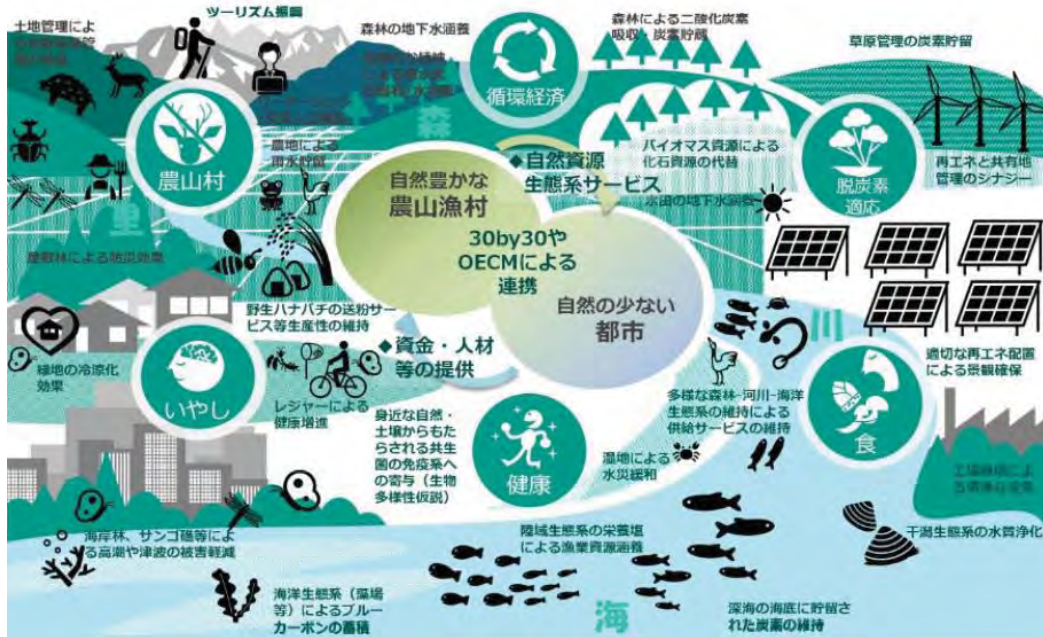
海草・海藻そのものが炭素の貯留庫ではない
⇒ 4つの貯留庫が存在



自然資本による外部資金獲得

自然資本を活用した資金流動性

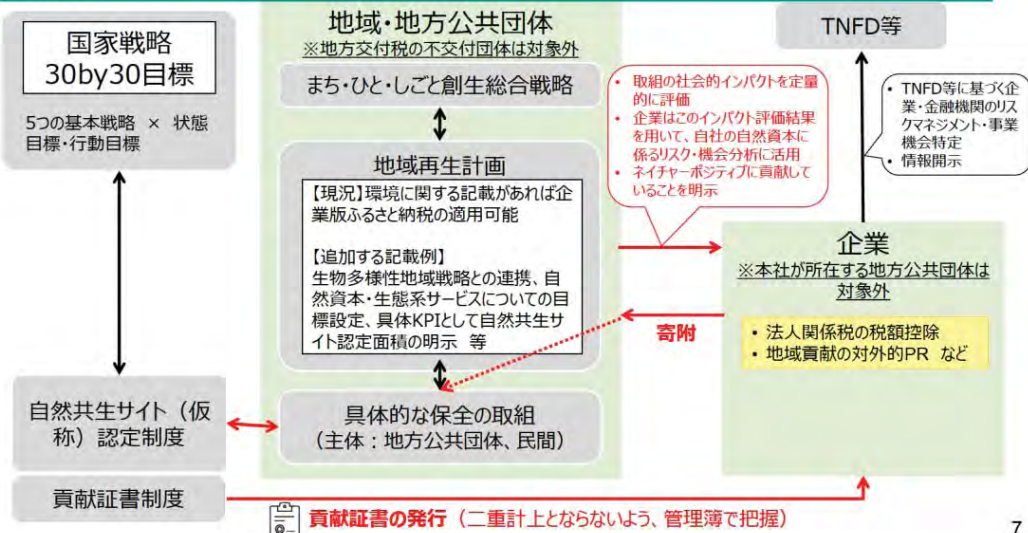
30by30実現後の地域イメージ ~自然を活用した課題解決~



外部資金の獲得手法（一例）

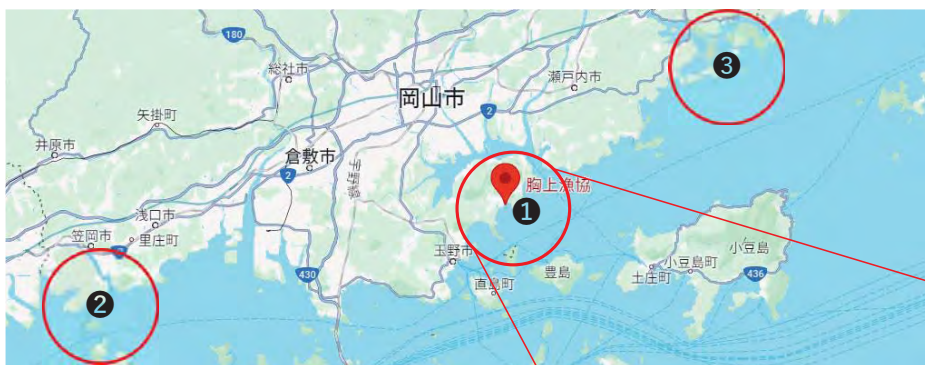
① 企業版ふるさと納税を用いたインセンティブ付与

- 企業版ふるさと納税は、地域再生計画での環境に関する記載の確認により、**現状の制度変更を伴わず**自然資本関連事業への寄附が可能であるため、その周知により活用を促していく。
- 企業版ふるさと納税を用いた支援をTNFD等への対応に活用する場合は、**地域再生計画により具体的な目標や自然共生サイト（仮称）の位置づけが記載される**ことで、企業の貢献をより具体的に示すことが可能になる。



玉野市胸上漁港で第一歩を踏み出す

岡山県での藻場（アマモ場）活動



- ①玉野市胸上浜（今回）
- ②笠岡市笠岡港（民間活動）
- ③備前市日生町

【胸上浜の課題】

- ・ 10年アマモの種を撒いているが定着しない
- ・ 科学的な原因が究明したい



藻場イベント (5月11日)



藻場イベント (5月25日)



今後の活動

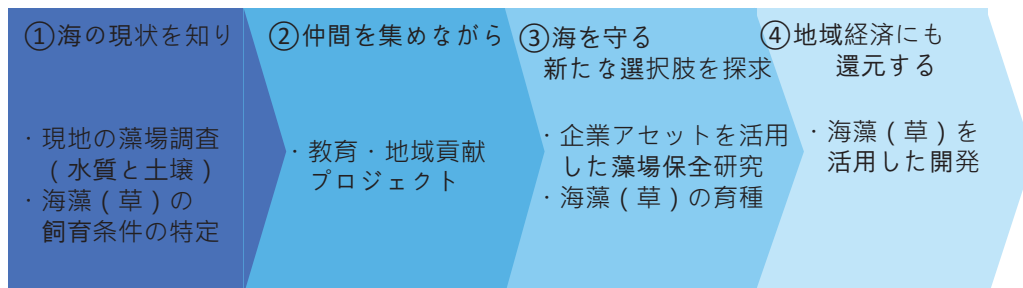


瀬戸内渚フォーラム

目的

瀬戸内に関係する様々なステークホルダーが集結する機会の創設

→人と海が共栄するこれからの地域循環型社会のモデルケースの実現



藻場保全から行う意義

藻場に対する注目の高まり

ブルーカーボンプレジットが発行されており、カーボンニュートラルが叫ばれる現代において注目が集まっている

生物多様性の支え

海藻(草)類を食べる生き物にとっての重要な餌場、様々な生物の生息場・産卵場・保育場になる

効果 (メリット)

社会

漁業・観光業などを持続可能なものにできる

労働者を守る/雇用の確保、地元産業の保護の実現

優秀な人材流入・確保の実現

瀬戸内における研究の価値化により、今後の瀬戸内海に関する研究予算の増加が見込まれる

→国内外から優秀な研究者や人材を確保していくことが可能に

参加者

事業・技術の新規拡大

ブルーカーボンプレジット・生物多様性クレジットの獲得につながる可能性

企業ブランド向上にも資する

連携創出

自治体・アカデミア・企業など、様々なステークホルダーの繋がりとなるため

最新情報の収集や、複数社間の連携創出にもつながる

広告宣伝

発信の場として活用することで自社の広告宣伝となる

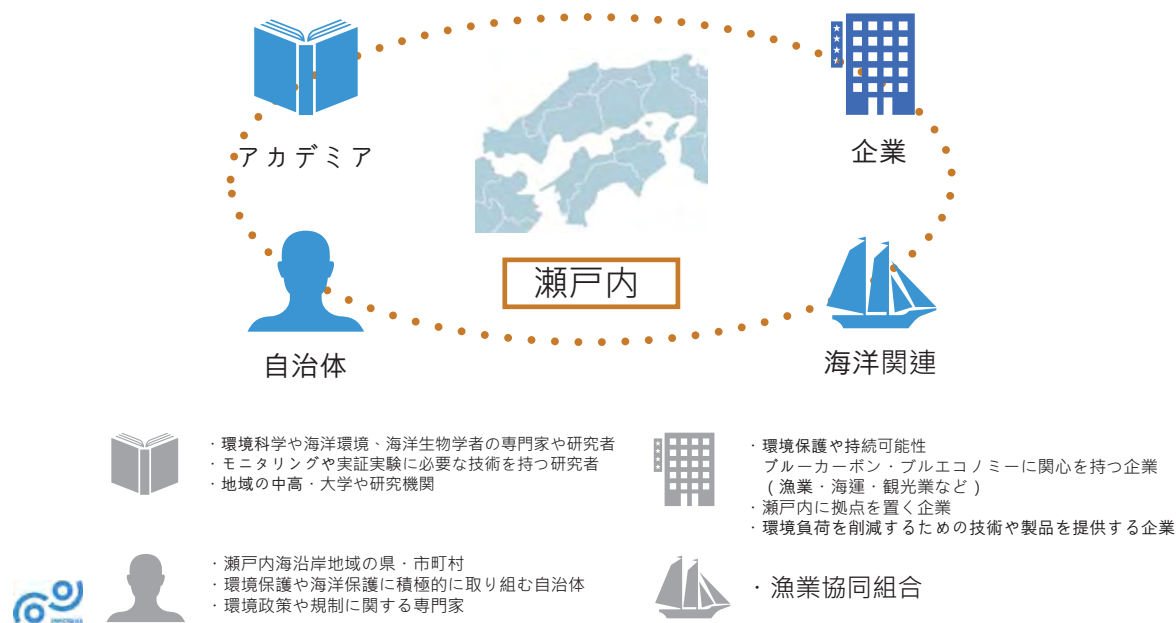
企業価値の向上

採用ブランディングが向上する

→企業の成長の加速化

巻き込みたいステークホルダー

以下をはじめとしたステークホルダーの参画を促す



瀬戸内渚フォーラム3カ年計画

